

#### 4. 履修基準（履修にあたっての留意事項）

- (1) 前期、後期それぞれで履修できる履修単位数の上限は22単位である。ただし、資格等取得に関する科目で卒業要件とならない科目、および他大学等との単位互換制度に基づいて履修する科目の単位はこれに含めない。
- (2) 4年次においては、例外として22単位を超えて履修できる場合がある。ただし、教務課に自ら申し出て指示を受けた場合に限る。

## 5. 履修方法

### (1) 共通教育科目

授業科目の名称		単位数			標準履修年次	備考	
		必修	選択必修	選択			
共通教育科目	初期導入・リテラシー教育科目	基礎ゼミナール1	2			1前	
		基礎ゼミナール2	2			1後	
		英語A1(文法・語彙)	1			1前	留学生(交換留学生を除く)はA1、A2、B1、B2のみ必修。
		英語A2(文法・語彙)	1			1後	
		英語A3(英文講読)	1			2前	
		英語A4(英文講読)	1			2後	
		英語B1(コミュニケーション)	1			1前	
		英語B2(コミュニケーション)	1			1後	
	英語B3(コミュニケーション)			1	2前		
	英語B4(コミュニケーション)			1	2後		
	日本語A1a		1		1前	日本語A1～B4全科目は、留学生(交換留学生を除く)のみが対象。留学生以外は履修不可。 日本語A1～A4は、a(advanced)またはb(basic)どちらか(計4単位)を選択必修	
	日本語A1b		1		1前		
	日本語A2a		1		1後		
	日本語A2b		1		1後		
	日本語A3a		1		2前		
	日本語A3b		1		2前		
	日本語A4a		1		2後		
	日本語A4b		1		2後		
	日本語B1	1			1前		
	日本語B2	1			1後		
	日本語B3	1			2前		
	日本語B4	1			2後		
	日本語表現法1	2			1前		
	日本語表現法2			2	1後		
	コンピュータリテラシー1	2			1前		
	コンピュータリテラシー2			2	1後		
	スポーツ科学実技A1	1			1前		
	スポーツ科学実技A2	1			1後		
スポーツ科学実技B			1	1・2前			
スポーツ科学実技C			1	1・2後			
キャリアデザイン1	2			1後			
キャリアデザイン2	2			3前・後			
プレインターンシップ	2			2前・後			
インターンシップ			2	3前・後			

教養教育科目	哲学			2	1・2前		
	心理学			2	1・2前		
	歴史学			2	1・2前		
	文学			2	1・2後		
	デザイン論			2	1・2後		
	憲法入門			2	1・2後		
	マスコミ論			2	1・2後		
	数学			2	1・2前		
	統計学1			2	1・2前		
	統計学2			2	1・2後		
	環境論			2	1・2後		
	情報と社会			2	1・2前		
	科学・技術論			2	1・2前		
	ジェンダー論			2	1・2後		
健康・スポーツ概論1			2	1・2前			
現代社会の諸問題A			2	1・2前			
授業科目の名称		単位数			標準履修年次	備考	
		必修	選択必修	選択			
共通教育科目	現代社会の諸問題B 現代社会の諸問題C とちぎ学			2	1・2前		
				2	1・2前		
				2	1・2後		
	日本事情A 日本事情B			2	1・2前	留学生（交換留学生を除く）は必修。	
				2	1・2後		
		初級フランス語1-1 初級フランス語1-2 初級フランス語2-1 初級フランス語2-2 中級フランス語1 中級フランス語2 初級中国語1-1 初級中国語1-2 初級中国語2-1 初級中国語2-2 中級中国語1 中級中国語2 初級韓国語1-1 初級韓国語1-2 初級韓国語2-1 初級韓国語2-2 中級韓国語1 中級韓国語2			1	1前	学部が許可した場合以外は、初級1-1から履修をはじめること。  初級1-1を履修する者は、同時に初級2-1の履修をはじめられる。  留学生は母語以外について履修可とする。
					1	1後	
					1	1前	
					1	1後	
					1	2・3前	
					1	2・3後	
					1	1前	
					1	1後	
					1	1前	
					1	1後	
					1	2・3前	
					1	2・3後	
				1	1前		
			1	1後			
			1	1前			
			1	1後			
			1	2・3前			
			1	2・3後			
	英語C1 英語C2 英語D1 英語D2 英語E1 英語E2			1	2・3・4前		
				1	2・3・4後		
				1	2・3・4前		
				1	2・3・4後		
				1	2・3・4前		
			1	2・3・4後			
自主科目A 自主科目B 自主科目C			2	1・2・3・4			
			2	1・2・3・4			
			2	1・2・3・4			
海外研修A 海外研修B 海外研修C 海外研修D			2	1・2・3・4後			
			2	1・2・3・4後			
			2	1・2・3・4後			
			2	1・2・3・4後			



(2) 専門教育科目

授業科目の名称		単位数			標準履修年次	備考
		必修	選択必修	選択		
専 門 教 育 科 目	初 等 教 育 専 門 科 目	教職論（小・中・高）	2			1・2 前
		教育原理（小・中・高）	2			1・2 後
		教育の制度と社会（小・中・高）	2			2・3 前
		教育心理学（小・中・高）	2			1・2 前
		教育心理学（小・中・高）	2			4 後
		教職実践演習（小・中・高）	2			2 後
		教育課程論（小・中・高）	2			2・3 前
		道德指導法（小・中・高）	2			2・3 前
		特別活動指導法（小・中・高）	2			2・3 前
		教育方法論（小・中・高）	2			2・3 前
		生徒指導と進路指導（小・中・高）	2			2 後
		教育相談（小・中・高）	2			2・3・4 後
		総合的な学習に関する指導法（小・中・高）	2			1・2・3・4 後
		小学校国語（書写を含む）	2			後
		小学校社会			2	1・2・3・4
		小学校算数			2	前
		小学校理科			2	1・2・3・4
		小学校生活			2	前
		小学校音楽			2	1・2・3・4
		小学校図画工作			2	後
		小学校家庭	2			1・2・3・4
		小学校体育	2			後
		生涯学習概論	2			1・2・3・4
		外国語活動に関する指導法（初等）	2			前
		発達心理学	2			1・2・3・4
		特別支援教育総論	2			前
		知的障害児教育総論	2			1・2・3・4
		知的障害の発達心理学	2			後
		国語科教育法（初等）			2	3・4 前
		社会科教育法（初等）			2	2・3 前
		算数科教育法（初等）			2	1 後
		理科教育法（初等）			2	2・3 後
		生活科教育法（初等）			2	2・3 前
		音楽科教育法（初等）			2	2・3 前
		図画工作科教育法（初等）	2			2・3 前
		家庭科教育法（初等）			2	2・3 前
体育科教育法（初等）			1	1・2・3 後		
教職初期指導			4	1・2・3 前		
教職総合指導				2・3 前		
教職実践研究（小・中・高）				2・3 前		
教育実習事前事後指導（初等）				1・2・3 後		
小学校教育実習				1・2・3 後		
				1 後		
				2・3 前		
				3 後		
				3 後		
				3 後		

特別支援教育専門科目	知的障害児・者心理学			2	2・3 前後			
	知的障害児・者生理心理学			2	2・3 後			
	知的障害の認知心理学			2	2・3 前			
	視覚障害教育			2	2・3 後			
	聴覚障害者教育総論			1	2・3 前			
	肢体不自由者教育総論			2	2・3 後			
	病弱教育			2	2・3 前			
	重複障害者教育			2	2・3 前			
	言語障害教育			1	2・3 前			
	発達障害児の心理と教育			2	2・3 後			
	知的障害児教育法 1			2	3 前			
	知的障害児教育法 2			2	3 後			
	知的障害児教育課程論			2	2・3 後			
特別支援学校教育実習事前事後指導			1	4 前				
特別支援学校教育実習			2	4 前				
授業科目の名称		単位数			標準履修年次	備考		
		必修	選択必修	選択				
専門教育科目	中等教育専門科目	日本語学概論 A	2			1・2 前		
		日本語学概論 B	2				1・2 後	
		日本語文法 A			2		1・2 前	
		日本語文法 B			2		1・2 前	
		文章表現法	2				2・3 後	
		日本人の言語史 A			2		2・3 前	
		日本人の言語史 B			2		2・3 後	
		日本文学史 A	2				1・2 前	
		日本文学史 B	2				1・2 後	
		日本文学史 C			2		2・3 前	
		日本文学史 D			2		2・3 後	
		日本古典文学研究 A			2		2・3 前	
		日本古典文学研究 B			2		2・3 後	
		日本近代文学研究 A			2		2・3 前	
		日本近代文学研究 B			2		2・3 後	
		日本近代文学研究 C			2		2・3 前	
		日本近代文学研究 D			2		2・3 後	
		漢文学概論 A			2		1・2 前	
		漢文学概論 B			2		1・2 後	
		書道 A	1				1・2・3 前	
		書道 B			1		1・2・3 後	
		国語科教育法 1			2		2 前	
		国語科教育法 2			2		2 後	
		国語科教育法 3			2		3 前	
		国語科教育法 4			2		3 後	
		教育実習事前事後指導（中・高）				1	4 前	
		高等学校教育実習				2	4 前	
		中学校教育実習				4	4 前	
		専門演習 A	2				2 前	
	専門演習 B	2				2 後		
	専門演習 C	2				3 前		
	専門演習 D	2				3 後		
	卒論指導演習 1	2				4 前		
卒論指導演習 2	2				4 後			
卒業論文	8				4 後			

## 6. 履修登録

### (1) 登録方法

履修登録は、前期科目については前期の履修登録期間、後期科目については後期の履修登録期間に Web 履修登録システム (キャンパスプラン) を使って行うこと。Web 履修登録システムの使い方については、別冊「Web 履修登録マニュアル」を参照し、誤りのないよう登録すること。

登録科目の誤りや登録もれがあると授業に出席し試験を受けても単位の修得は認められないので、履修登録は正確に行うこと。

### (2) 履修確認表の提出

Web 履修登録システムを使って履修登録を行った後に「履修確認表」を2部出力し、1部を自分の控えとして残して、1部を教務課窓口へ提出すること。

### (3) 登録期間

前期、後期とも掲示により知らせる。登録期間内に(2)の「履修確認表」の提出までを終らせること。なお、期間終了後の変更はできない。

## 履修登録の完了まで

時間割及び講義概要をもとに「履修計画用紙」を使って自分の時間割を組む(履修計画を立てる)。



定められた期間に、Web 履修登録システム (キャンパスプラン) を使って履修登録をする。



翌日、履修画面上で登録内容の確認をする。



誤りがない場合



「履修確認表」を出力して  
教務課窓口へ提出する。

誤りがある場合



履修画面上で修正して  
再度確認を行う。

## 7. 授 業

### (1) 授業期間

授業期間は前期と後期に分け、原則として前期・後期各 15 週間とする。

### (2) 授業時間

時限	1 時限	2 時限	昼休み	3 時限	4 時限	5 時限
時間	9 : 00 ∩ 10 : 30	10 : 40 ∩ 12 : 10		13 : 00 ∩ 14 : 30	14 : 40 ∩ 16 : 10	16 : 20 ∩ 17 : 50

### (3) 授業時間割

授業時間割は、4 月のオリエンテーションで配布する。また、掲示板に常時掲示する。

なお、時間割は配布（掲示）後、履修者数その他の事情により、教室・曜日・時限・担当教員などが変更される場合がある。その際は掲示により知らせる。

### (4) 休 講

休講は、掲示板および学内情報サービスにより知らせる。

### (5) 補 講

休講となった授業については、原則として補講を行う。日程は掲示により知らせる。なお、授業のない曜日・時限に行うこともある。

## 8. 試 験

### (1) 試験の種類

試験には、前期定期試験、後期定期試験、追試験、再試験がある。また、科目によっては必要に応じて随時試験を行うことがある。

#### ①前期定期試験

前期開講科目について実施する。

#### ②後期定期試験

後期開講科目について実施する。

#### ③追試験

受験資格のある者が、試験当日にやむを得ない事由（本人の病気、天災、交通事故、忌引等）により試験を受けられなかった場合、本人の願い出により行なうことがある。

（履修規程第 13 条第 1 項）

#### ④再試験

再試験は、修業年限が 4 年（学則第 7 条）を満たした学生（見込みを含む）のうち、卒業要件単位数（学則第 29 条）が不足する者で、次の各号をすべて満たす場合に、本人の願い出により行う。

- (1) 卒業要件単位数に不足する単位数が 8 単位以内であること
- (2) 当該年次に履修登録された授業科目であること
- (3) 出席日数不足等で評価対象外とされた授業科目でないこと
- (4) 同一年度内で既に再試験を受験した科目でないこと
- (5) 演習、実習系科目、他大学等単位互換による履修科目、特別講座等以外の授業科目であること

（履修規程第 13 条第 2 項）

なお、卒業要件単位数を満たした学生のうち、免許・資格に関する科目の単位数が不足する者が、次の各号をすべて満たす場合に、本人の願い出により再試験を行う。

- (1) 免許・資格の取得要件単位数に不足する単位数が 2 単位以内であること
- (2) 当該年次に履修登録された科目であること
- (3) 出席日数不足などで評価対象外とされた授業科目でないこと

（履修規程第 13 条第 3 項）

※ 追試験および再試験を受験する者は、それぞれの試験願に所定の受験料を添えて申し込むこと。

### (2) 試験方法

試験には筆記試験の他、レポート・論文・実技・実習等の試験方法がある。

定期試験期間中に実施されるのは主に筆記試験であり、その他の方法による試験については、担当教員から直接指示がある。

### (3) 受験資格

次のいずれかに該当する者には受験資格がない。

- ①履修登録していない者
- ②授業料その他学納金を期日までに納入していない者
- ③受験する科目の授業を3分の1以上欠席している者

### (4) 受験上の注意

- ①試験開始後30分以上遅刻した者は試験室に入室できない。
- ②試験を受ける場合は、学生証を机上に提示しなければならない。
- ③その他、試験を受けるにあたって学生が守るべき事項については、その都度掲示により知らせる。

### (5) 試験の時間割

試験の時間割は、試験開始の1週間前に掲示により発表する。なお、この時間割は、通常の授業時間割の時限・教室・曜日と異なることがあるので注意すること。

また、試験時間割の掲示後に時間割を変更・訂正する場合がありますので、受験前に必ず再確認すること。

### (6) レポート

科目により、授業中や定期試験期間中にレポート提出を求められる場合がある。

レポートの提出にあたっては、担当教員または教務課の指示に従い、定められた日時に定められた提出先へ提出すること。

### (7) 不正行為

定期試験において不正行為を行った場合には、当該学期中に履修登録したすべての科目について単位認定を行わず、成績評価を無資格とする。また、在学中に2回以上、不正行為を行ったと認められた者は、学則第59条に基づき処分を受けるものとする。

## 9. 他大学等との単位互換制度による単位の修得

本学は「大学コンソーシアムとちぎ」(栃木県内の大学間における単位互換制度。各大学が一定の授業科目をここに提供し、それらの科目を履修して修得した単位を在籍大学における単位として認める制度)に参加しているほか、宇都宮大学など近隣の大学との間に個別の単位互換協定を結んでいる。これらの組織、大学が開講する授業科目を履修して単位を修得した場合、それを一定の条件で本学の授業科目の履修により修得したものと

認めることがある。「一定の条件」とは、単位数のほか、履修しようとする科目の内容が所属学部の単位として認められる内容か否か、などであり、可否は所属学部の教務委員会が判断する。

単位互換制度を利用した履修申し込み期限は、原則として履修しようとする科目を開講している大学の履修登録期限と同じである。よって、希望がある場合は4月のオリエンテーション期間中に教務課に相談すること。「大学コンソーシアムとちぎ」などの資料も教務課に備えてある。具体的な手続き方法は、個別の事例ごとに教務課・所属学部教務委員会が指示する。

## 10. 教員免許状の取得

### (1) 取得資格

人間文化学部 発達教育学科において、卒業所要単位のほかに教育職員免許取得のための科目を履修し必要な単位を修得すると、「小学校」の教員免許状（小学校教諭一種）を取得することができる。また、教員免許科目履修者が「特別支援教育に関する科目」を合わせて履修し必要な単位を修得すると、「特別支援学校」の教員免許状（特別支援学校教諭一種）を取得することができる。また、教員免許科目履修者が「中等教育に関する科目」を合わせて履修し必要な単位を修得すると、「中学校」または「高等学校」の教員免許状（中学校教諭一種、高等学校教諭一種。教科は「国語」。）を取得することができる。さらに、教員免許科目履修者が「司書教諭に関する科目」を合わせて履修し必要な単位を修得すると、「司書教諭」の資格を取得することができる。

### (2) 取得条件

免許状取得時に学士の学位（4年制大学を卒業）を有すること。

### (3) 取得のための履修方法

取得しようとする免許状によって、それぞれ必要科目と必要単位数が異なる。必要科目と単位数は（別表1）の（1）～（5）の通り。

### (4) 履修上の注意事項

- ①「教科に関する科目」「教科又は教職に関する科目」「教職免許法施行規則に定められた科目」「教職に関する科目」「特別支援教育に関する科目」「中等教育に関する科目」の中には、卒業所要単位として認められる科目がある。（別表内の★印）
- ②小学校、中学校、高等学校、及び特別支援学校の教育実習の時期、条件等については、2年次以降に配布する「教育実習の手引き」を参照すること。介護等体験についても同じく「教育実習の手引き」を参照すること。

#### 4. 履修基準（履修にあたっての留意事項）

- (1) 前期、後期それぞれで履修できる履修単位数の上限は22単位である。ただし、資格等取得に関する科目で卒業要件とならない科目、および他大学等との単位互換制度に基づいて履修する科目の単位はこれに含めない。
- (2) 4年次においては、例外として22単位を超えて履修できる場合がある。ただし、教務課に自ら申し出て指示を受けた場合に限る。

## 5. 履修方法

### (1) 共通教育科目

授業科目の名称		単位数			標準履修年次	備考	
		必修	選択必修	選択			
共通教育科目	初期導入・リテラシー教育科目	基礎ゼミナール1	2			1前	
		基礎ゼミナール2	2			1後	
		英語A1 (文法・語彙)	1			1前	留学生(交換留学生を除く)はA1、A2、B1、B2のみ必修。
		英語A2 (文法・語彙)	1			1後	
		英語A3 (英文講読)	1			2前	
		英語A4 (英文講読)	1			2後	
		英語B1 (コミュニケーション)	1			1前	
		英語B2 (コミュニケーション)	1			1後	
		英語B3 (コミュニケーション)			1	2前	
		英語B4 (コミュニケーション)			1	2後	
		日本語A1a		1		1前	日本語A1～B4全科目は、留学生(交換留学生を除く)のみが対象。留学生以外は履修不可。
		日本語A1b		1		1前	
		日本語A2a		1		1後	
		日本語A2b		1		1後	
		日本語A3a		1		2前	
		日本語A3b		1		2前	
		日本語A4a		1		2後	
		日本語A4b		1		2後	
		日本語B1	1			1前	
		日本語B2	1			1後	
日本語B3	1			2前			
日本語B4	1			2後			
日本語表現法1	2			1前			
日本語表現法2			2	1後			
コンピュータリテラシー1	2			1前			
コンピュータリテラシー2			2	1後			
スポーツ科学実技A1	1			1前			
スポーツ科学実技A2	1			1後			
スポーツ科学実技B			1	1・2前			
スポーツ科学実技C			1	1・2後			

		キャリアデザイン1	2			1 後	
		キャリアデザイン2	2			2 前	
		プレインターンシップ	2			2 前・後	
		インターンシップ		2		3 前・後	
		哲学		2		1・2 前	
		心理学		2		1・2 前	
		歴史学		2		1・2 前	
		文学		2		1・2 後	
		デザイン論		2		1・2 後	
		憲法入門		2		1・2 後	
		マスコミ論		2		1・2 後	
		数学		2		1・2 前	
		統計学1		2		1・2 前	
		統計学2		2		1・2 後	
		環境論		2		1・2 後	
		情報と社会		2		1・2 前	
		科学・技術論		2		1・2 前	
		ジェンダー論		2		1・2 後	
		健康・スポーツ概論1		2		1・2 前	
		現代社会の諸問題A		2		1・2 前	
		単位数					
		授業科目の名称	必修	選択必修	選択	標準履修年次	備考
共通教育科目		現代社会の諸問題B			2	1・2 前	
		現代社会の諸問題C			2	1・2 後	
		とちぎ学			2	1 前	
		日本事情A			2	1 後	留学生（交換留学生を除く）は必修。
		日本事情B			2	1 前	
		初級フランス語1-1			1	1 前	学部が許可した場合以外は、初級1-1から履修をはじめること。留学生は母語以外について履修可とする。
		初級フランス語1-2			1	1 後	
		初級フランス語2-1			1	1 前	
		初級フランス語2-2			1	1 後	
		中級フランス語1			1	2・3 前	
		中級フランス語2			1	2・3 後	
		初級中国語1-1			1	1 前	
		初級中国語1-2			1	1 後	
		初級中国語2-1			1	1 前	
		初級中国語2-2			1	1 後	
		中級中国語1			1	2・3 前	
		中級中国語2			1	2・3 後	
		初級韓国語1-1			1	1 前	
		初級韓国語1-2			1	1 後	
		初級韓国語2-1			1	1 前	
		初級韓国語2-2			1	1 後	
		中級韓国語1			1	2・3 前	
		中級韓国語2			1	2・3 後	
		英語C1			1	2・3・4 前	
		英語C2			1	2・3・4 後	
		英語D1			1	2・3・4 前	
		英語D2			1	2・3・4 後	
英語E1				1	2・3・4 前		
英語E2				1	2・3・4 後		
	自主科目A			2	1・2・3・4		
	自主科目B			2	1・2・3・4		
	自主科目C			2	1・2・3・4		

	海外研修A			2	1・2・3・4 後	
	海外研修B			2	1・2・3・4 後	
	海外研修C			2	1・2・3・4 後	
	海外研修D			2	1・2・3・4 後	

(2) 専門教育科目

授業科目の名称		単位数			標準履修年次	備考	
		必修	選択必修	選択			
専 門 教 育 科 目	心理学概論	2			1前		
	臨床心理学概論	2			1前		
	心理学研究法			2	1後		
	心理学統計法			2	1後		
	心理学実験A			2	2前		
	心理学実験B			2	2後		
	公認心理師の職責			2	2前		
	知覚・認知心理学A			2	2・3前		
	知覚・認知心理学B			2	2・3後		
	学習・言語心理学A			2	2・3前		
	学習・言語心理学B			2	2・3後		
	感情・人格心理学			2	2・3前		
	神経・生理心理学A			2	2・3前		
	神経・生理心理学B			2	2・3前		
	社会・集団・家族心理学			2	2・3後		
	発達心理学			2	2・3前		
	障害者・障害児心理学			2	2・3後		
	心理的アセスメント			2	2・3前		
	心理学的支援法			2	2・3後		
	健康・医療心理学			2	3前		
	福祉心理学			2	3前		
	教育・学校心理学			2	3前		
	司法・犯罪心理学			2	3後		
	産業・組織心理学			2	3後		
	人体の構造と機能及び疾病			2	2・3前		
	精神疾患とその治療			2	2・3後		
	関係行政論			2	3前		
	心理演習			2	3前		
	心理実習A			2	3後		
	心理実習B			2	4前		
	科 目	日本語学概論A			2	1・2前	
		日本語学概論B			2	1・2後	
日本語文法A				2	1・2前		
日本語文法B				2	1・2後		
文章表現法				2	2・3後		
日本人の言語史A				2	2・3前		
日本人の言語史B				2	2・3後		
対照言語学				2	2・3前		
日本人の精神史				2	2・3前		
異文化関係論				2	2・3後		
英語圏の文化				2	1・2後		
英文法				2	1・2前		
英語表現法				2	2・3後		
社会学概論				2	1・2前		
社会的自我論				2	2・3前		
社会調査法				2	1・2前		
地域情報論				2	2・3後		
ネット社会のコミュニケーション				2	2・3前		
ネット社会の人と組織				2	2・3後		
社会教育論				2	2・3後		
調査データ論			2	2・3後			
漢字・漢語と社会			2	1・2前			
漢字・漢語と文化			2	1・2後			

授業科目の名称		単位数			標準履修年次	備考
		必修	選択必修	選択		
専門 教 育 科 目	専門演習A	2			2前	
	専門演習B	2			2後	
	専門演習C	2			3前	
	専門演習D	2			3後	
	卒論指導演習1	2			4前	
	卒論指導演習2	2			4後	
	卒業論文	8			4後	

## 6. 履修登録

### (1) 登録方法

履修登録は、前期科目については前期の履修登録期間、後期科目については後期の履修登録期間に Web 履修登録システム (キャンパスプラン) を使って行うこと。Web 履修登録システムの使い方については、別冊「Web 履修登録マニュアル」を参照し、誤りのないよう登録すること。

登録科目の誤りや登録もれがあると授業に出席し試験を受けても単位の修得は認められないので、履修登録は正確に行うこと。

### (2) 履修確認表の提出

Web 履修登録システムを使って履修登録を行った後に「履修確認表」を2部出力し、1部を自分の控えとして残して、1部を教務課窓口に提出すること。

### (3) 登録期間

前期、後期とも掲示により知らせる。登録期間内に(2)の「履修確認表」の提出までを終わらせること。なお、期間終了後の変更はできない。

## 履修登録の完了まで

時間割及び講義概要をもとに「履修計画用紙」を使って自分の時間割を組む(履修計画を立てる)。



定められた期間に、Web 履修登録システム (キャンパスプラン) を使って履修登録をする。



翌日、履修画面上で登録内容の確認をする。



誤りがない場合



「履修確認表」を出力して  
教務課窓口に提出する。

誤りがある場合



履修画面上で修正して  
再度確認を行う。

## 7. 授 業

### (1) 授業期間

授業期間は前期と後期に分け、原則として前期・後期各 15 週間とする。

### (2) 授業時間

時限	1 時限	2 時限	昼休み	3 時限	4 時限	5 時限
時間	9 : 00 ∩ 10 : 30	10 : 40 ∩ 12 : 10		13 : 00 ∩ 14 : 30	14 : 40 ∩ 16 : 10	16 : 20 ∩ 17 : 50

### (3) 授業時間割

授業時間割は、4 月のオリエンテーションで配布する。また、掲示板に常時掲示する。

なお、時間割は配布（掲示）後、履修者数その他の事情により、教室・曜日・時限・担当教員などが変更される場合がある。その際は掲示により知らせる。

### (4) 休 講

休講は、掲示板および学内情報サービスにより知らせる。

### (5) 補 講

休講となった授業については、原則として補講を行う。日程は掲示により知らせる。なお、授業のない曜日・時限に行うこともある。

## 8. 試 験

### (1) 試験の種類

試験には、前期定期試験、後期定期試験、追試験、再試験がある。また、科目によっては必要に応じて随時試験を行うことがある。

#### ①前期定期試験

前期開講科目について実施する。

#### ②後期定期試験

後期開講科目について実施する。

#### ③追試験

受験資格のある者が、試験当日にやむを得ない事由（本人の病気、天災、交通事故、忌引等）により試験を受けられなかった場合、本人の願い出により行なうことがある。

（履修規程第 13 条第 1 項）

#### ④再試験

再試験は、修業年限が 4 年（学則第 7 条）を満たした学生（見込みを含む）のうち、卒業要件単位数（学則第 29 条）が不足する者で、次の各号をすべて満たす場合に、本人の願い出により行う。

- (1) 卒業要件単位数に不足する単位数が 8 単位以内であること
- (2) 当該年次に履修登録された授業科目であること
- (3) 出席日数不足等で評価対象外とされた授業科目でないこと
- (4) 同一年度内で既に再試験を受験した科目でないこと
- (5) 演習、実習系科目、他大学等単位互換による履修科目、特別講座等以外の授業科目であること

（履修規程第 13 条第 2 項）

なお、卒業要件単位数を満たした学生のうち、免許・資格に関する科目の単位数が不足する者が、次の各号をすべて満たす場合に、本人の願い出により再試験を行う。

- (1) 免許・資格の取得要件単位数に不足する単位数が 2 単位以内であること

- (2) 当該年次に履修登録された科目であること
- (3) 出席日数不足などで評価対象外とされた授業科目でないこと

(履修規程第 13 条第 3 項)

※ 追試験および再試験を受験する者は、それぞれの試験願に所定の受験料を添えて申し込むこと。

## (2) 試験方法

試験には筆記試験の他、レポート・論文・実技・実習等の試験方法がある。

定期試験期間中に実施されるのは主に筆記試験であり、その他の方法による試験については、担当教員から直接指示がある。

## (3) 受験資格

次のいずれかに該当する者には受験資格がない。

- ①履修登録していない者
- ②授業料その他学納金を期日までに納入していない者
- ③受験する科目の授業を 3 分の 1 以上欠席している者

## (4) 受験上の注意

- ①試験開始後 30 分以上遅刻した者は試験室に入室できない。
- ②試験を受ける場合は、学生証を机上に提示しなければならない。
- ③その他、試験を受けるにあたって学生が守るべき事項については、その都度掲示により知らせる。

## (5) 試験の時間割

試験の時間割は、試験開始の 1 週間前に掲示により発表する。なお、この時間割は、通常の授業時間割の時限・教室・曜日と異なることがあるので注意すること。

また、試験時間割の掲示後に時間割を変更・訂正する場合があるので、受験前に必ず再確認すること。

## (6) レポート

科目により、授業中や定期試験期間中にレポート提出を求められる場合がある。

レポートの提出にあたっては、担当教員または教務課の指示に従い、定められた日時に定められた提出先へ提出すること。

#### (7) 不正行為

定期試験において不正行為を行った場合には、当該学期中に履修登録したすべての科目について単位認定を行わず、成績評価を無資格とする。また、在学中に2回以上、不正行為を行ったと認められた者は、学則第59条に基づき処分を受けるものとする。

### 9. 他大学等との単位互換制度による単位の修得

本学は「大学コンソーシアムとちぎ」(栃木県内の大学間における単位互換制度。各大学が一定の授業科目をここに提供し、それらの科目を履修して修得した単位を在籍大学における単位として認める制度)に参加しているほか、宇都宮大学など近傍の大学との間に個別の単位互換協定を結んでいる。これらの組織、大学が開講する授業科目を履修して単位を修得した場合、それを一定の条件で本学の授業科目の履修により修得したものと認めることがある。「一定の条件」とは、単位数のほか、履修しようとする科目の内容が所属学部の単位として認められる内容か否か、などであり、可否は所属学部の教務委員会が判断する。

単位互換制度を利用した履修申し込み期限は、原則として履修しようとする科目を開講している大学の履修登録期限と同じである。よって、希望がある場合は4月のオリエンテーション期間中に教務課に相談すること。「大学コンソーシアムとちぎ」などの資料も教務課に備えてある。具体的な手続き方法は、個別の事例ごとに教務課・所属学部教務委員会が指示する。

### 10. 資格の取得

#### (1) 取得資格

人間文化学部 心理コミュニケーション学科においては、卒業所要単位のほかに各種の資格等を得るための科目を履修し必要な単位を修得すると、「図書館司書資格」を得ることができる。

#### (2) 取得条件

学部を卒業できる単位を修得すること。

#### (3) 取得のための履修方法

取得に必要な科目と単位数は下記の通り。

別表 1 司書資格取得のための履修表

授業科目の名称	単位数			標準履修年次	備 考
	必修	選択必修	選択		
生涯学習概論	2				必修 22 単位を含め、26 単位以上修得
図書館概論	2				
図書館制度・経営論	2				
図書館情報技術論	2				
図書館サービス概論	2				
情報サービス論	2				
児童サービス論	2				
情報サービス演習 A	1				
情報サービス演習 B	1				
図書館情報資源概論	2				
情報資源組織論	2				
情報資源組織演習 1	1				
情報資源組織演習 2	1				
図書館基礎特論			2		
図書館情報資源特論			2		
図書・図書館史			2		